

17 券売機

■基本的な考え方■

車いす使用者や視覚障害者等が円滑に利用できる構造とする。

整備基準

17 券売機

- 券売機を設ける場合においては、次に定める構造の券売機を1以上設けること。
 - 車いす使用者が円滑に利用することができるよう十分な床面積が確保され、かつ、金銭投入口、運賃ボタン、取消しボタンその他の設備が適切に配置されていること。
 - 運賃等について、点字による表示又は音声により視覚障害者を案内する装置その他これに代わる装置を設けること。
- 直接地上へ通ずる各出入口から当該券売機に至る通路及び当該券売機から改札口に至る通路のうち、それぞれ1以上の通路に線状ブロック及び点状ブロックを敷設すること。

整備基準の解説

●整備の対象

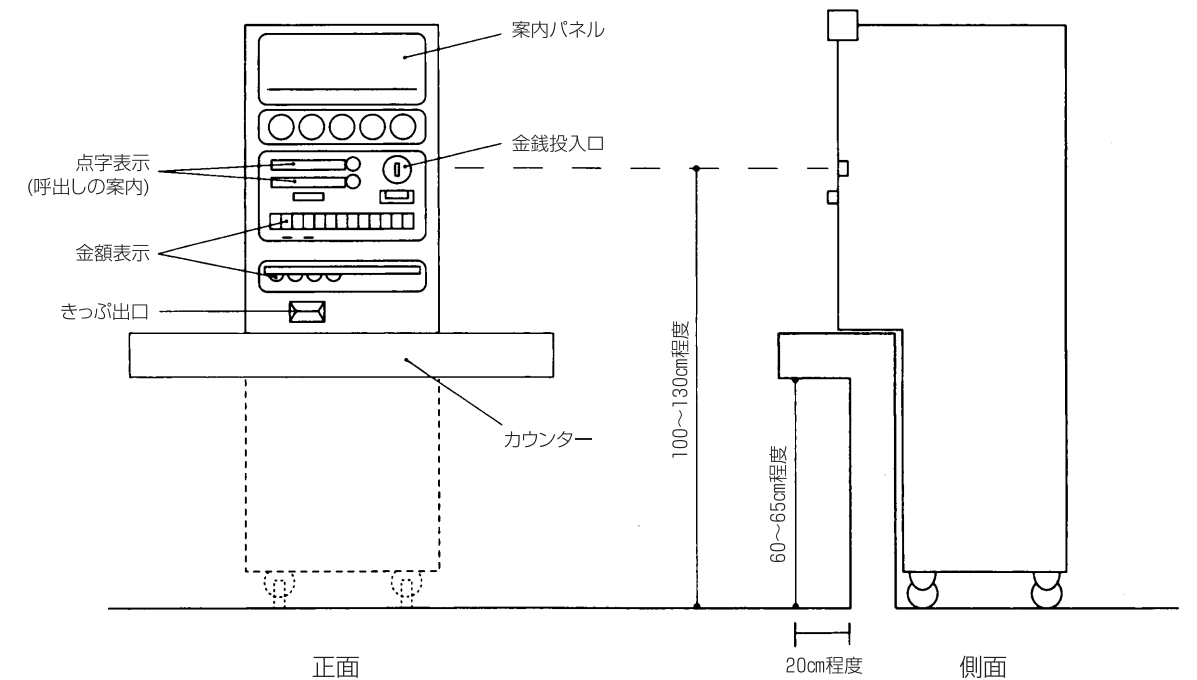
券売機を設ける場合には、一以上の券売機を車いす使用者や視覚障害者等が利用できる構造とする。

配慮事項

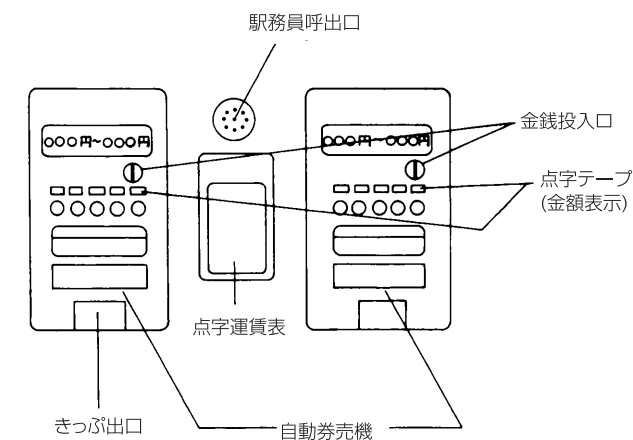
項 目	解 説
1(1) 車いす使用者が利用できる券売機	<ul style="list-style-type: none"> ○周囲には、車いすで移動・回転できるスペース（直径150cmの円が内接できる程度）を確保する。 ○車いす使用者が利用する金銭投入口、運賃ボタン、キップ出口等の高さは130cm以下とし、また、車いすが接近しやすいようにカウンター下部に奥行き20cm程度のスペースを設ける。
2(2) 視覚障害者が利用できる券売機	<ul style="list-style-type: none"> ○視覚障害者が利用しやすいように金銭投入口、運賃ボタン等を点字で表示する。 ○点字表示された機種は改札口にできるだけ近い位置に設け、他の利用者との動線が交差ししないようにする。 ○点状ブロックと券売機カウンターの間隔は30cm程度とする。 ○視覚障害者が円滑に利用できるように点字表示のほか音声案内装置を併設する。

券売機の例

券売機の横に点字運賃表を設置する。また、インターホン、呼び出しボタンなどは使用者にとって使用しやすい高さ、構造とする。



点字運賃表の例



券売機への誘導

